

令和3年度 大学院修士課程 鍛金専攻筆答試験

解答時間：10：00～11：00

問題1

影響を受けた作品やアーティスト等を例に挙げ（複数名可）、どのように影響されたのかを交えつつ、自己の制作について将来の展望を論じなさい。

※大学院での制作・研究についてではなく、修了後の展開について論じること。

1000字以内、原稿用紙3枚、草案用紙2枚支給

問題2

下記の合金の読み仮名を記入し、組成、特性、融点を含めた説明をなさい。

① 銀鑑（ ）

② 朧銀（ ）

③ 真鍮（ ）

問題3

TIG溶接による溶接を行うとき、銅板とアルミニウム板の溶接設定の違いを簡潔に説明しなさい。

問題4

銅板 1.0 mm厚で直径 100 mm、高さ 100 mmの器を制作するときの地金の直径を求めなさい。単位はmmとする。

式：

答え：

問題5

以下の文章はへら絞り（スピニング）加工について書かれたものである。空欄部分を埋めて文章を完成させなさい。

へら絞り（スピニング）加工とは、型と金属板を回転させ、へら等の絞り工具を用いて、金属板をしごきながら型に密着させて成形するものである。

よって製品は、円錐形・半球形のような（ ）に限られる。

へら絞り加工に用いる型材として、多量生産の絞りに適した（ ）や、50個、100個というような複数生産の場合、型制作が容易で自由度がある（ ）が最適である。その他にも、樹脂系素材としてジュラコンなどが用いられる。

へら絞り加工をする際、金属板とへらの間に（ ）が生じて加工困難になるため、加工する金属板に潤滑油や石鹸を塗る。

令和3年度 大学院修士課程 鍛金専攻実技試験

日 時 2月13日(土) 筆答試験 10:00 ~ 11:00
実技試験 11:00 ~ 17:00
(昼食は12:00~12:45の間筆答試験会場ですること)

問 題

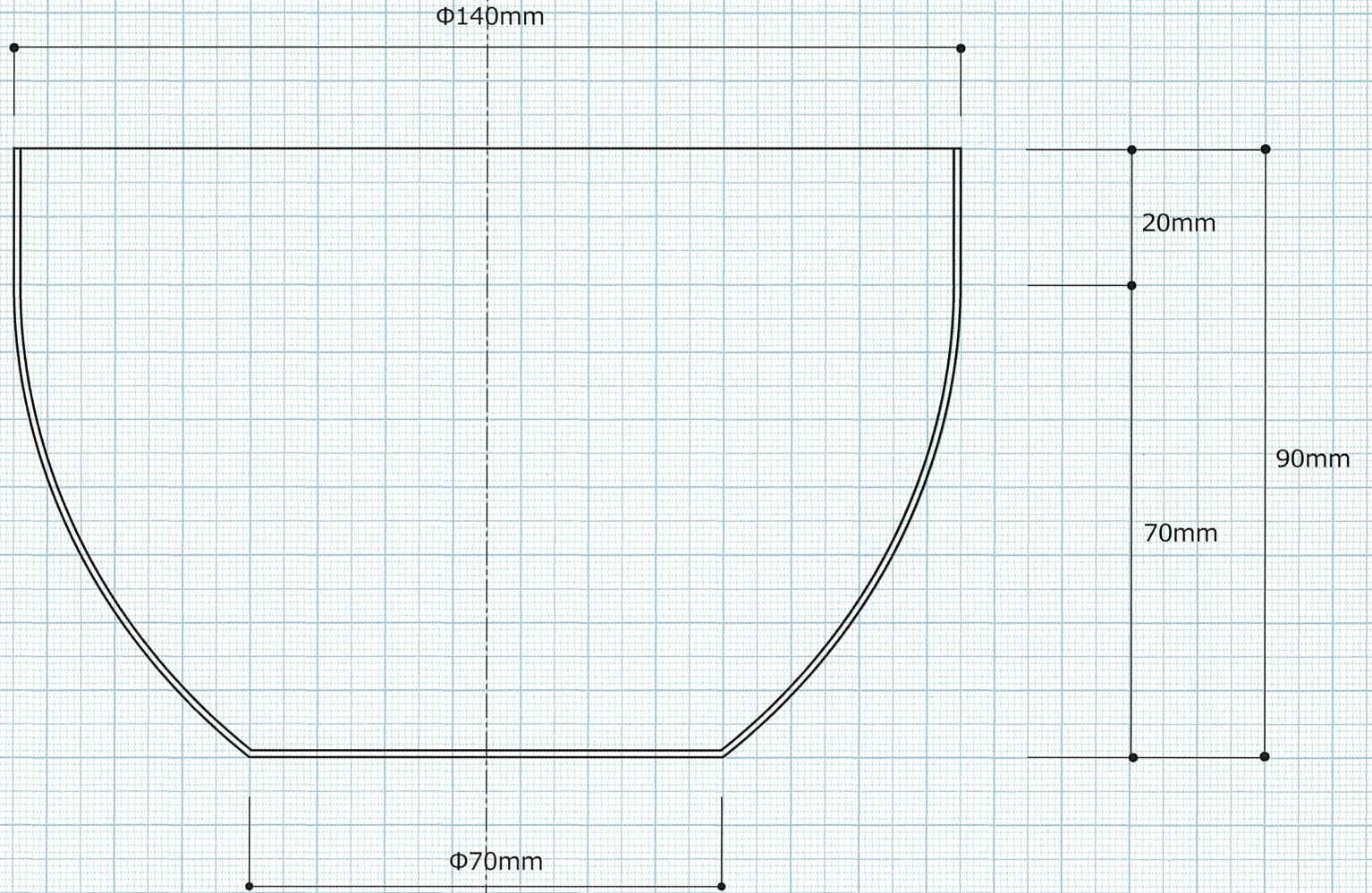
与えられた図面の器をつくりなさい

配布物

- ・銅板
 - ・図面
 - ・草案用紙 1枚
 - ・ゲージ用クリアシート 1枚
 - ・マジック 1本
 - ・ウエス 1枚
-
-

面接試験は14:00から受験番号順に行います。

受験番号	
------	--



題目	大学院修士課程 鍛金専攻実技試験
品名	器
素材	銅板 (1.0mm)
年度	令和3年度
所属	東京藝術大学 鍛金研究室